

平成 29 年度「鶴岡市在来作物調査研究事業」
報告書

平成 30 年 3 月 30 日

山形在来作物研究会

文責：江頭宏昌

目次

1. はじめに	1
2. 山形県、庄内地方および鶴岡市の在来作物数の変化	2
3. 鶴岡の在来作物リスト(2018.3.30現在)	5
4. 庄内地域の在来作物マップ	12
5. 鶴岡市内の在来作物に関する資料	13
(平成18年度の報告資料に追加・修正)	
カキ	
1 伝九郎ガキ	14
2 平核無ガキ	15
3 ギボウシ(ウルイ)	16
4 赤飯ササギ	18
5 大滝ニンジン	19
ネギ	
6 松尾の赤ネギ(絶滅)	20
7 ヤグラネギ	21
キュウリ	
8 與治兵衛キュウリ	22
9 外内島キュウリ	24
カブ	
10 温海カブ	26
11 田川カブ	28
12 藤沢カブ	30
13 宝谷カブ	32
14 カラトリイモ	34
15 甲州ブドウ	36
16 三角ソバ(追加)	37
食用ギク	
17 もってのほか	39
18 黄菊	40
19 白山ホウズキ(絶滅)	41
ダイコン	
20 小真木ダイコン	42
21 野良ダイコン	43
22 ふじしま大根	44

ダイズ・エダマメ	
23 田んぼのくろ豆	46
24 だだちや豆	47
25 トチ	49
26 友江フキ	52
ナス	
27 沖田ナス	53
28 波渡ナス（追加）	54
29 萬吉ナス（追加）	56
30 民田ナス	57
31 ミョウガ	58
32 孟宗	59
33 ヤマブドウ	61
34 ヤナギタデ（追加）	62
35 ライマメ（白ササギ）	63
36 早田ウリ	64
6. 在来作物の現状と将来に向けた課題	65
1) 「地域らしさ」の重要性はグローバル化した	65
2) 在来作物への関心の広がり	65
(1) 全国への広がり	66
(2) 全国の歴史的な流れ	67
(3) 関心の内容の多様化	68
3) 2006年度の報告書で提案した課題とその後の変化	68
(1) 観光資源としての在来作物	68
(2) 多様性を経済につなぐ	70
(3) 教育への利用	70
4) 在来作物をめぐる今後の課題	71
(1) 後継者問題—生産者の確保	71
(2) 流通の問題—生産者と消費者を結ぶアクセス	72
(3) 一次加工業者の確保	72
(4) 種子の確保の問題	72
(5) 飲食店・観光スポットとの連携	72
(6) おわりに—文化と経済の両輪で在来作物を支える	72
7. 引用・参考文献	73

1. はじめに

平成 18（2006）年度に鶴岡市委託研究事業として、「山形県庄内地域南部の在来作物に関する基礎研究」について山形大学農学部の赤澤経也、江頭宏昌（代表）、平 智、高樹英明が報告した。その報告書はその後ユネスコ食文化創造都市認定の基礎的な研究資料として活用された。

今回、改めて山形在来作物研究会（代表：江頭宏昌）が平成 28 年～29 年度に「鶴岡市在来作物調査研究事業」の委託を受け、その後の在来作物等についての追跡調査を実施することになった。その調査の目的は、平成 30 年におけるユネスコモニタリングガイドに対する報告の基礎資料とすることと、鶴岡市が目指すべき方向性についての基盤となる資料とすることである。

平成 28 年度は前回の調査から約 10 年が経過して、リストアップしている在来作物の数は大きく変化した。さらに調査が進んだこともあり全体としての数は増えたものの、部分的には消滅してしまったものもある。具体的には、「白山ホオズキ」や「イソガキ」のように消失したもの、「波渡ナス」や「三角ソバ」のように新たに発掘されたもの、ヤナギタデのように野生でも存在するが伝統的な利用の文化があるものも在来作物に加えた方がよいと考え直したものなどがある。さらにオウトウの「佐藤錦」やツケナの「山形青菜」は山形県村山地方では在来作物であるといえても、発祥地でない庄内地方では種苗を自家採種などで維持する文化もないことから在来作物のリストから外した方がよいと考え直したものもある。こうしたことを整理し直して、現在の鶴岡市に存在する在来作物の基礎的な資料を提示したい。

2. 山形県、庄内地方および鶴岡市の在来作物数の変化

平成 18 (2006) 年度の報告書には、山形県の在来作物の数は 133 種類、庄内は 64 種類、庄内南部 (三川町は在来作物のリストがなかったため鶴岡市のみ) では 40 種類であると示した (図 1 や表 1)。

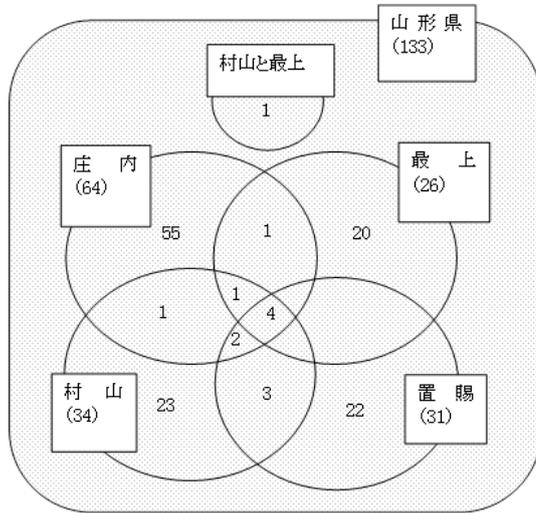


図1. 山形県の在来作物の地域別品目数(2006)
()のない数字をたすと全県系統数 133 になる。

表1. 庄内地方における在来作物系統数

	庄内南部	南北共通	庄内北部	計
野菜	31	5	9	45
果樹	6	4	1	11
穀類	1	1	4	6
装飾・儀礼	2			2
総計	40	10	14	64

しかしながら、図 2 および図 3 に示したように、現在では山形県の在来作物数は 179 種類、庄内は 87 種類 (他地方と共有も含む)、鶴岡市は 60 種類 (他市町と共有も含む) のようにいずれも増加した。この増加は、もともと認知されずに存在していた在来作物が関心の高まりとともに認知されるようになった結果の変化であり、見かけ上の増加である。現実には在来作物の大部分は依然として後継者が不在であり、今後の存続が危ぶまれるものが多数を占めている。

庄内地方の市町別の在来作物の数と種類を表 2 に示した。庄内地方の在来作物数は 87 種

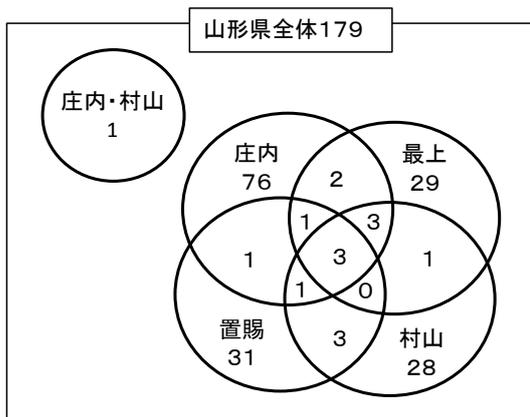


図2. 山形県の地域別在来作物数

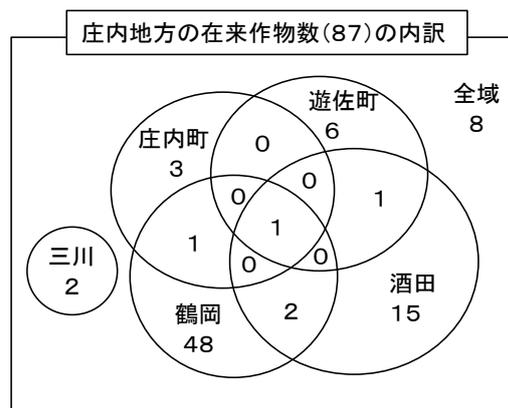


図3. 庄内地方の市町別の在来作物の数

類であり、そのうちの 3 分の 2 以上にあたる 60 種類 (内訳: 鶴岡単独 48 + 酒田市と共有 2 + 庄内町と共有 1 + 酒田・庄内町・遊佐町と共有 1 + 庄内町・遊佐町と共有 1 + 全域で共有 7) が鶴岡に存在する。そのため、鶴岡の在来作物の将来が庄内の在来作物の将来を左右

するといっても過言ではない。作物の種類別に見ると、野菜が圧倒的に多く、庄内地方全体では87種類中68種類で78.2%を占めている。野菜と果樹を併せると、90.8%になる。ちなみに表2の中の花き作物はハス（鶴岡市）、工芸作物は「シナノキ（鶴岡市）」、「ほうききび（庄内町）」、「虎斑竹（旧八幡町と遊佐町）」である。

表2. 庄内地方の市町村別の在来作物の数と種類

	野菜(豆 類含む)	果樹	穀類(イ ネ、ソバ)	花き	工芸	計
鶴岡	38	7	1	1	1	48
酒田市	12	2	1			15
三川町	1	1				2
庄内町	1		1		1	3
遊佐町	5		1			6
鶴岡・酒田	2					2
鶴岡・庄内町	1					1
酒田・遊佐町					1	1
鶴岡・酒田・庄内町・遊佐町	1					1
庄内全域	6	1	1			8
	67	11	5	1	3	87

鶴岡市の地区別に見ていくと、旧鶴岡市内の在来作物数は鶴岡市 60 種類中 35 種類 (58.3%) を占め、以下多い順に、温海 16、榎引 15、朝日 14、藤島 13、羽黒 12 と続いた。在来作物は全国的に、平野部よりも中山間地に多く存在する傾向にある。しかし旧鶴岡市は異色で、平野部にもダダチャ豆系統や小真木大根、民田ナス、外内島キュウリなどがあるだけでなく、金峯山、母狩山に沿って東側にいわゆる金峯街道があるが、この道沿いに江戸時代から栽培されてきた野菜や果樹の在来作物が集中して存在している。藤沢や田川地区には焼畑のカブ、海沿いの波渡地区に波渡ナス、早田地区に早田ウリが存在するなど、旧鶴岡市は、地形によらず、まんべんなく分布しているのが特筆すべき点だといえる。

表3. 鶴岡市の地区別の在来作物数と種類

地域	野菜(豆 類含む)	果樹	穀類(イ ネ、ソバ)	花き	工芸	計
旧鶴岡	22	3		1		26
温海	5		1		1	7
朝日	2	2				4
榎引	3	1				4
羽黒	2					2
藤島	3	1				4
鶴岡・温海	1					1
朝日・藤島	1					1
鶴岡・榎引・羽黒	1					1
温海・朝日・榎引	1					1
朝日・榎引・羽黒	1					1
榎引・羽黒・藤島	1					1
全域	5	1	1			7
計	48	8	2	1	1	60

鶴岡市の在来作物は平成 18（2006）年度の 48 品目から、平成 29（2017）年度までの 11 年間に 14 品目増加し、2 品目消滅した。結果として、12 品目増加し、60 品目になった。

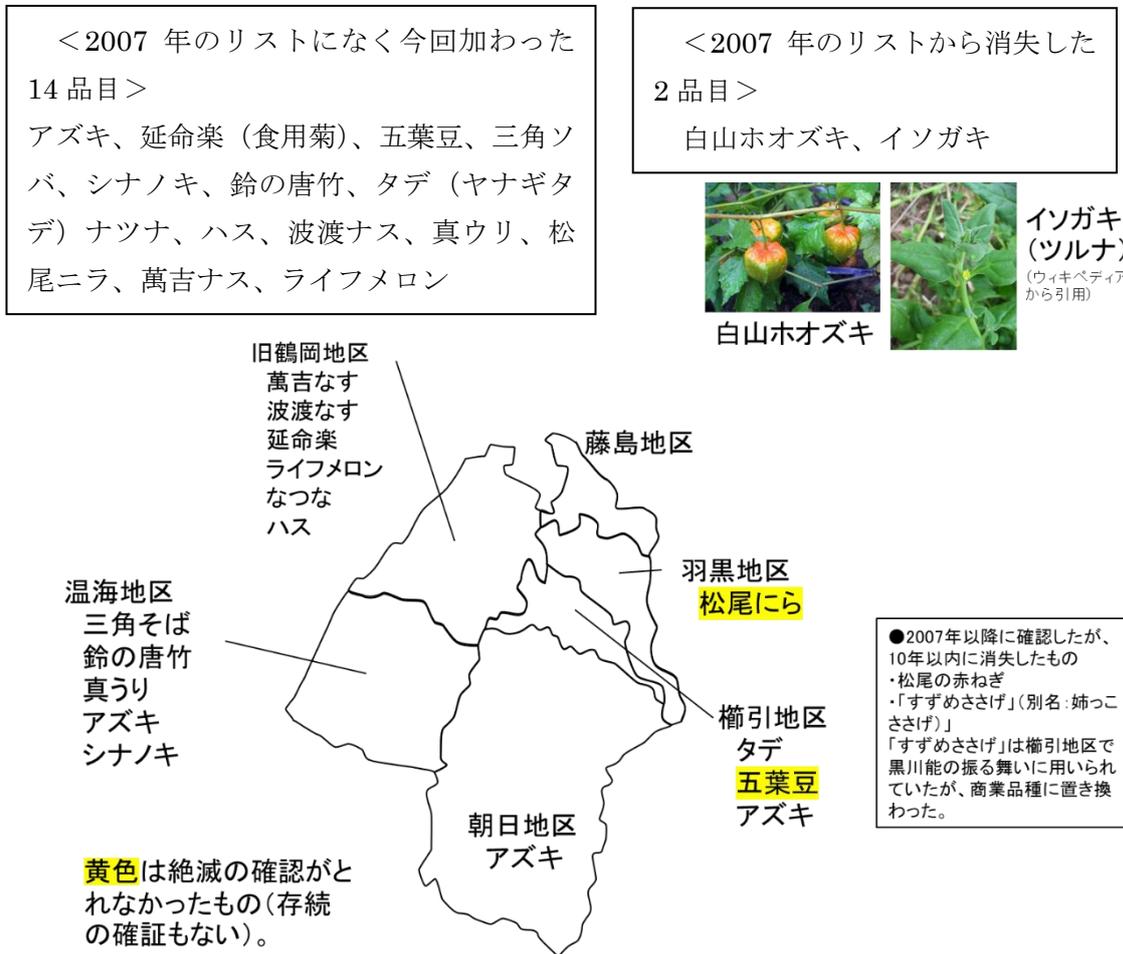


図 4. ここ 11 年間に鶴岡市で増減のあった在来作物

3. 鶴岡の在来作物リスト

表 4 に鶴岡市における 2018 年 3 月 30 日現在における在来作物リストを示す。